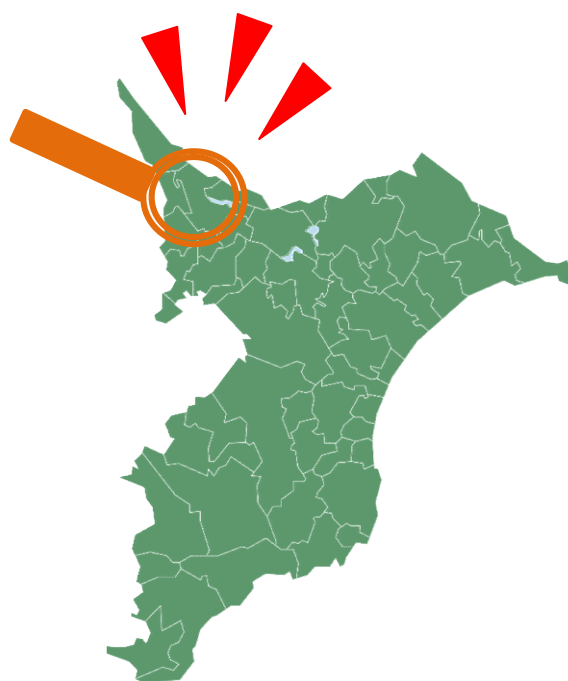


2021・10

柏の景気情報

令和3（2021）年10月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

T E L : 04-7162-3305

F A X : 04-7162-3323

U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E - m a i l : info@kashiwa-cci.or.jp

調査要領

調査期間

令和3年10月25日 ～ 令和3年11月8日

調査対象

柏市内129事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	129	83	64.3%
建設	31	17	54.8%
製造	35	24	68.6%
卸・小売	38	27	71.1%
サービス	25	15	60.0%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

DI = （増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調 	好調 	まあまあ 	不振 	極めて不振 

令和3年（2021年）10月の動向

【業況について】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.0（前月水準▲35.9）となり、マイナス幅が17.9ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲25.9(同▲48.2)、建設業▲11.7(同▲31.5)、製造業▲16.6(同▲34.7)、サービス業▲13.3(同▲22.2)である。

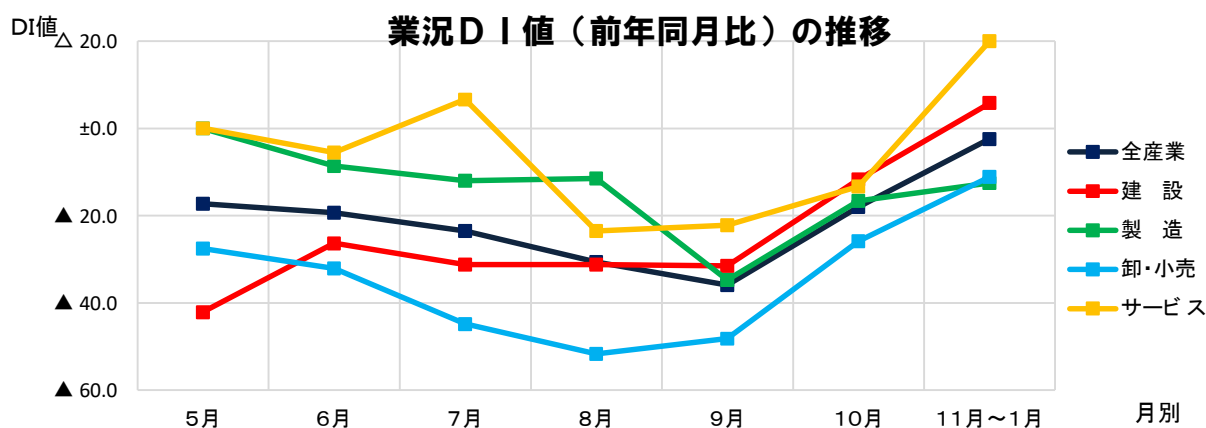
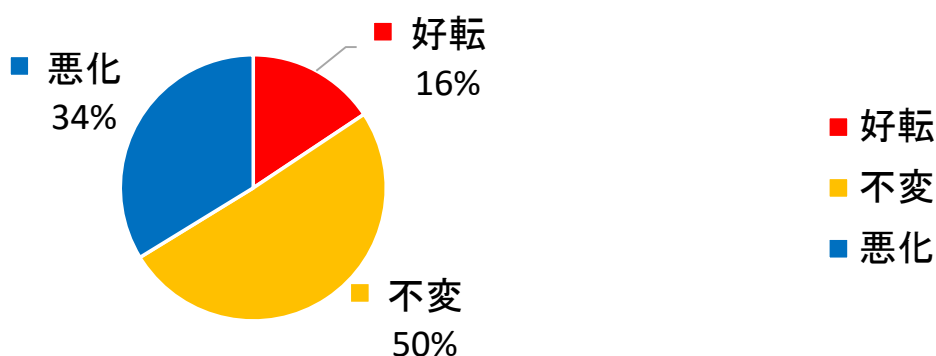
○ 向こう3ヶ月（11月から1月）の先行き見通しについては、全産業では、▲2.4（前月水準▲5.6）となり、マイナス幅が3.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△20.0(同△5.5)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△5.8(同▲10.5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲11.1(同▲17.2)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲12.5(同△4.3)である。

業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合

	令和3年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月（10月～12月）
全産業	▲17.3	▲19.3	▲23.5	▲30.6	▲35.9	▲18.0	▲2.4（▲5.6）
建設	▲42.1	▲26.3	▲31.2	▲31.2	▲31.5	▲11.7	△5.8（▲10.5）
製造	±0.0	▲8.6	▲12.0	▲11.5	▲34.7	▲16.6	▲12.5（△4.3）
卸・小売	▲27.5	▲32.1	▲44.8	▲51.7	▲48.2	▲25.9	▲11.1（▲17.2）
サービス	±0.0	▲5.5	△6.6	▲23.5	▲22.2	▲13.3	△20.0（△5.5）

前年同月と比べた今月の業況について



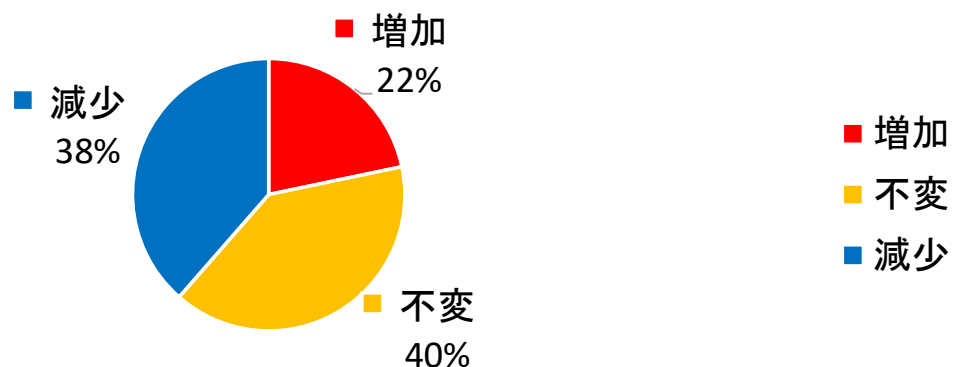
【売上について】

- 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.8(前月水準▲25.8)となり、マイナス幅が9.0ポイント縮小した。
- 業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△11.7(同▲36.8)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲22.2(同▲37.9)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲20.0(同▲5.5)、製造業▲29.1(同▲17.3)である。
- 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、△2.4(前月水準▲3.3)となり、マイナス幅が5.7ポイント縮小する見通しである。
- 業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△20.0(同△11.1)、建設業△5.8(同△5.2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲3.7(同▲27.5)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲4.1(同△8.6)である。

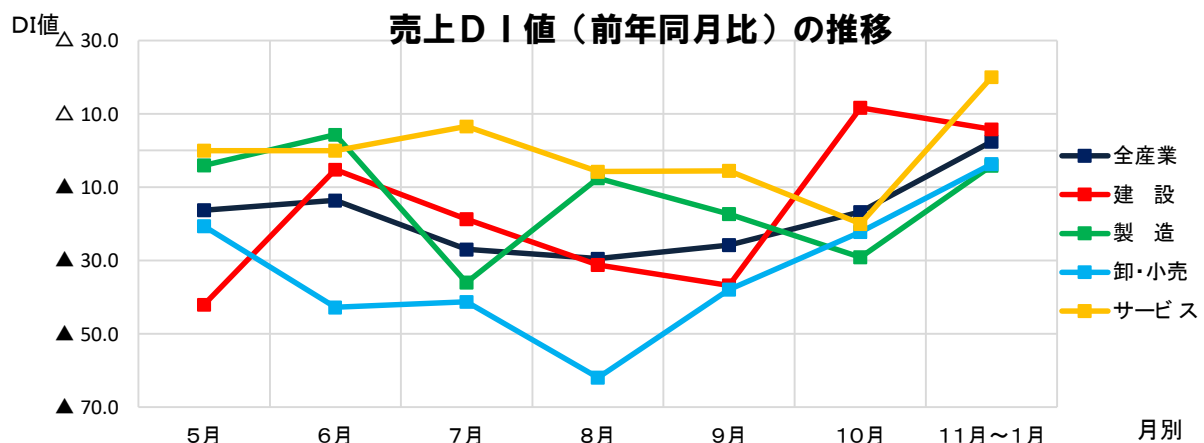
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和3年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月(10月～12月)
全産業	▲16.3	▲13.6	▲27.0	▲29.5	▲25.8	▲16.8	△2.4(▲3.3)
建設	▲42.1	▲5.2	▲18.7	▲31.2	▲36.8	△11.7	△5.8(△5.2)
製造	▲4.0	△4.3	▲36.0	▲7.6	▲17.3	▲29.1	▲4.1(△8.6)
卸・小売	▲20.6	▲42.8	▲41.3	▲62.0	▲37.9	▲22.2	▲3.7(▲27.5)
サービス	±0.0	±0.0	△6.6	▲5.8	▲5.5	▲20.0	△20.0(△11.1)

前年同月と比べた今月の売上について



売上DI値(前年同月比)の推移



【採算について】

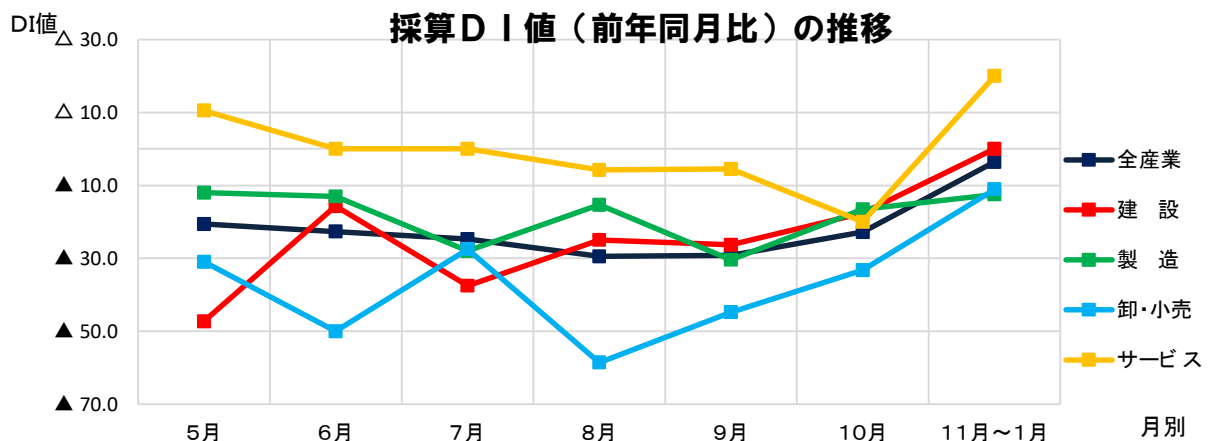
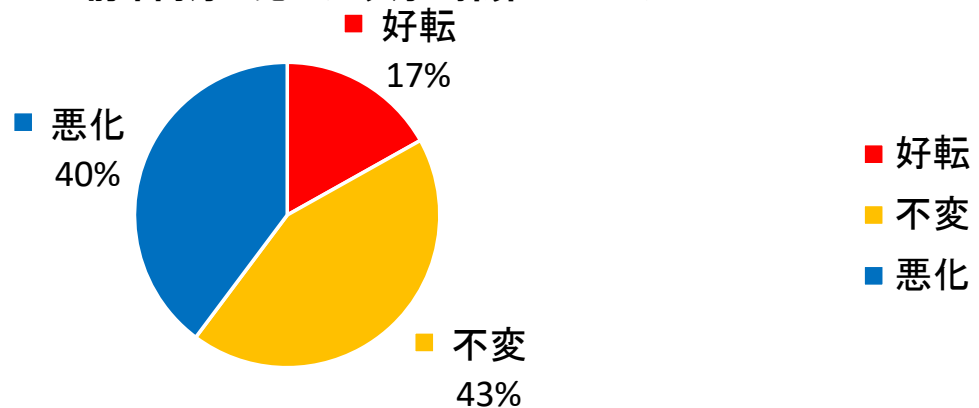
- 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.8(前月水準▲29.2)となり、マイナス幅が6.4ポイント縮小した。
- 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲16.6(同▲30.4)、卸小売業▲33.3(同▲44.8)、建設業▲17.6(同▲26.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲20.0(同▲5.5)である。
- 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲3.6(前月水準▲12.3)であり、マイナス幅が8.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△20.0(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲11.1(同▲31.0)、建設業±0.0(同▲10.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲12.5(同±0.0)である。

採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和3年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月(10月～12月)
全産業	▲20.6	▲22.7	▲24.7	▲29.5	▲29.2	▲22.8	▲3.6(▲12.3)
建設	▲47.3	▲15.7	▲37.5	▲25.0	▲26.3	▲17.6	±0.0(▲10.5)
製造	▲12.0	▲13.0	▲28.0	▲15.3	▲30.4	▲16.6	▲12.5(±0.0)
卸・小売	▲31.0	▲50.0	▲27.5	▲58.6	▲44.8	▲33.3	▲11.1(▲31.0)
サービス	△10.5	±0.0	±0.0	▲5.8	▲5.5	▲20.0	△20.0(±0.0)

前年同月と比べた今月の採算について



【仕入単価について】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲53.0(前月水準▲46.0)となり、マイナス幅が7.0ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲41.1(同▲47.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲40.0(同▲16.6)、製造業▲75.0(同▲69.5)、卸小売業▲48.1(同▲44.8)である。

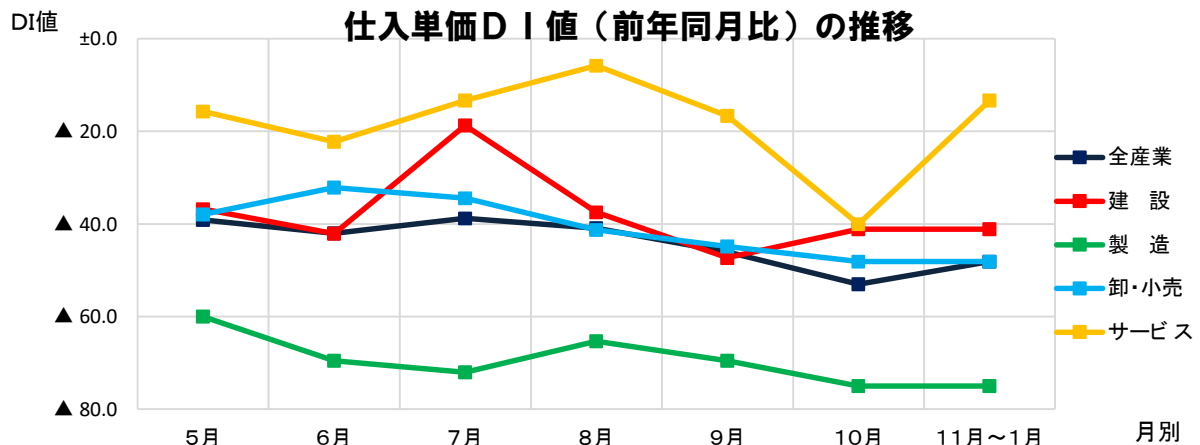
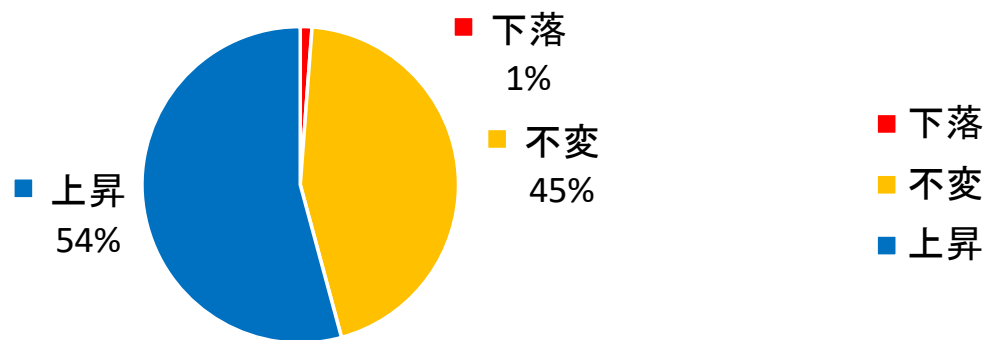
○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲48.1(前月水準▲40.4)となり、マイナス幅が7.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲13.3(同▲22.2)、建設業▲41.1(同▲42.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲75.0(同▲60.8)、卸小売業▲48.1(同▲34.4)である。

仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

	令和3年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月(10月～12月)
全産業	▲39.1	▲42.0	▲38.8	▲40.9	▲46.0	▲53.0	▲48.1(▲40.4)
建設	▲36.8	▲42.1	▲18.7	▲37.5	▲47.3	▲41.1	▲41.1(▲42.1)
製造	▲60.0	▲69.5	▲72.0	▲65.3	▲69.5	▲75.0	▲75.0(▲60.8)
卸・小売	▲37.9	▲32.1	▲34.4	▲41.3	▲44.8	▲48.1	▲48.1(▲34.4)
サービス	▲15.7	▲22.2	▲13.3	▲5.8	▲16.6	▲40.0	▲13.3(▲22.2)

前年同月と比べた今月の仕入単価について



【従業員について】

- 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△9.6(前月水準△6.7)となり、プラス幅が2.9ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△29.4(同△21.0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△13.3(同▲5.5)である。変わらない業種は、卸小売業±0.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業△4.1(同△13.0)である。

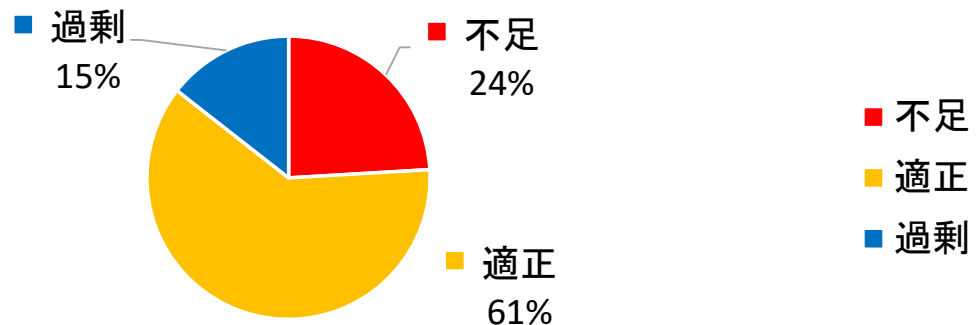
- 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、△16.8(前月水準△16.8)となり、変わらなかった。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△26.6(同△11.1)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業△7.4(同△10.3)、建設業△23.5(同△26.3)、製造業△16.6(同△21.7)である。

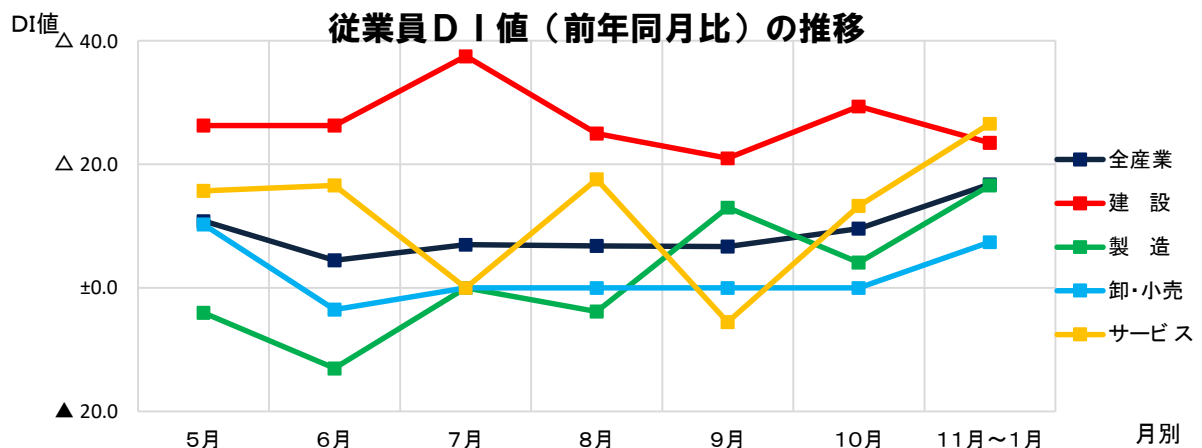
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和3年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月(10月～12月)
全産業	△10.8	△4.5	△7.0	△6.8	△6.7	△9.6	△16.8(△16.8)
建設	△26.3	△26.3	△37.5	△25.0	△21.0	△29.4	△23.5(△26.3)
製造	▲4.0	▲13.0	±0.0	▲3.8	△13.0	△4.1	△16.6(△21.7)
卸・小売	△10.3	▲3.5	±0.0	±0.0	±0.0	±0.0	△7.4(△10.3)
サービス	△15.7	△16.6	±0.0	△17.6	▲5.5	△13.3	△26.6(△11.1)

前年同月と比べた今月の従業員について



従業員DI値(前年同月比)の推移



【資金繰りについて】

- 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13.2(前月水準▲15.7)となり、マイナス幅が2.5ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△13.3(同▲5.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲5.8(同▲21.0)、製造業▲25.0(同▲26.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲22.2(同▲10.3)である。

- 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.6(前月水準▲4.4)となり、マイナス幅が11.2ポイント拡大する見通しである。

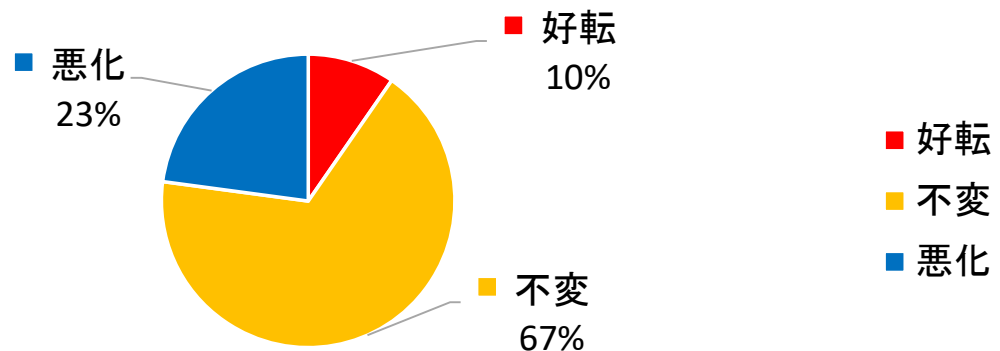
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲5.8(同▲10.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△16.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲29.1(同▲13.0)、卸小売業▲18.5(同▲6.8)である。

資金繰りDI値(前年同月比)の推移

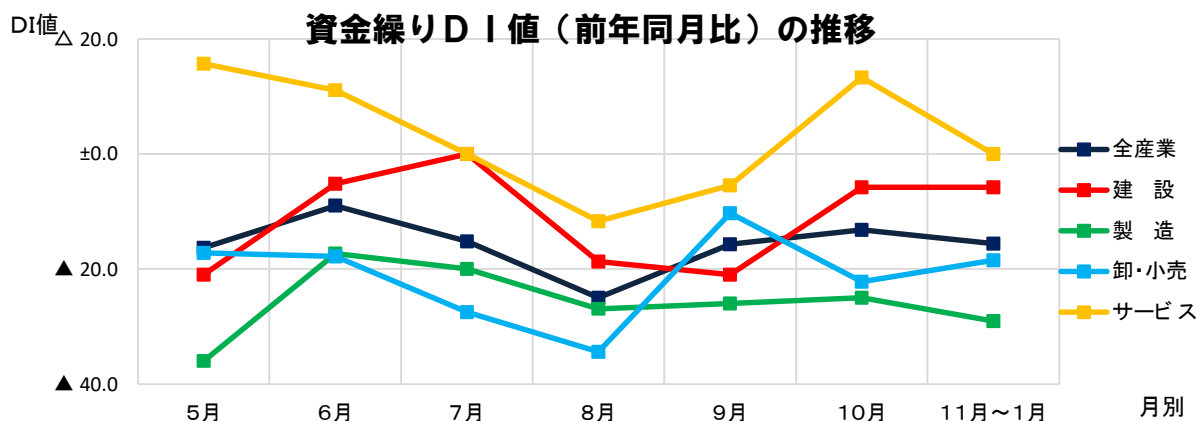
※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和3年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月(10月～12月)
全産業	▲16.3	▲9.0	▲15.2	▲25.0	▲15.7	▲13.2	▲15.6(▲4.4)
建設	▲21.0	▲5.2	±0.0	▲18.7	▲21.0	▲5.8	▲5.8(▲10.5)
製造	▲36.0	▲17.3	▲20.0	▲26.9	▲26.0	▲25.0	▲29.1(▲13.0)
卸・小売	▲17.2	▲17.8	▲27.5	▲34.4	▲10.3	▲22.2	▲18.5(▲6.8)
サービス	△15.7	△11.1	±0.0	▲11.7	▲5.5	△13.3	±0.0(△16.6)

前年同月と比べた今月の資金繰りについて



資金繰りDI値(前年同月比)の推移



調査結果のポイント

◀緊急事態宣言解除で、全産業D Iは6か月ぶりに改善。先行きは回復への期待感高いが、資材高騰等に懸念▶

10月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.0(前月水準▲35.9)となり、マイナス幅が17.9ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲25.9(同▲48.2)、建設業▲11.7(同▲31.5)、製造業▲16.6(同▲34.7)、サービス業▲13.3(同▲22.2)である。

緊急事態宣言が解除され、10月はすべての業種でD I値が改善した。人出の増加が見られ、飲食店や小売店では利用客が増加。建設業、製造業では、経済活動が徐々に活発となり、修繕問合せ及び生産量が増加傾向だが、資材の不足、高騰が続き、採算悪化や納期の遅延が起きている。また、飲食、運輸業では人出不足とのコメントが寄せられた。

先行きD I値は▲2.4(前月比+15.6)であり、回復への期待感は強く、建設、サービス業はプラスに転じる見込み。

【建設業】からは、「年内は良さそう」(職別工事)、「工場の一部LED化完了。とても明るく作業がしやすくなった。今後も設備投資していきたい」(畳)、「年度末までの仕事が多く出ているが、内容は厳しい」(土木工事)、「従業員不足が好転しないまま、ウッドショック、鉄材高騰に加えセメント等の単価が改正。利益幅がますます減少」(とび)、「修繕の問合せ増加。コロナで商品の納期が2〜3ヵ月は遅れている」(一般土木建築工事)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「材料不足、高騰が顕著。メーカーの電機部品欠品状態は、受注案件の遅延、失注に繋がる」(金属加工機械)、「電気部品の納期遅延が悪化し、機械が作りたくても作れず、コストアップが見込まれる。受注は好調だが、明るいとは言い切れない」(機械・部品)、「緊急事態宣言の解除により、酒類の製造量増加。飲食店の制限解除により、さらに増加を見込む」(酒類)、「材料高騰が続き、製品単価の値上げに踏み切らざるを得ない。順調に売上を伸ばしていた製品が、取引先の生産調整により出荷が滞る。在庫を持たないようにし、棚卸でスリム化を実現。社員教育に力を注ぎ、健康セミナーも開催」(金属製品)、「第6波を警戒し、緊急事態宣言解除後もテレワークを実施。人材採用が進みだした感あり」(鉄鋼)、「自動車の生産台数が減っている為、中古車販売やメンテナンスが増加しており、補修用部品の一時的な伸びが期待できる。生産数が回復すれば需要が減る可能性は高く、生産設備の拡大や増員は慎重。今は、働き方改革やDX対応等への投資が重要」(自動車付属品)、「少しずつ荷動きが出始めた。在宅勤務、時短営業もコロナ以前の体制に戻し、注意しつつ積極的営業活動を再開」(化学工業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「まだまだ景気は厳しい状況」(百貨店)、「駐車場を新設、店舗のプチ改装で今後の売上増を期待」(洋菓子店)、「大手案件が無い中でも、順調な受注を維持」(建築材料卸売)、「人の動きが好転。夜の外食増加により、食品の売上に影響。お出掛けや肌着が好転の兆し」(大型小売店)、「コロナや原油高で仕入価格が上昇し、利益減。キャッシュレス手数料の上昇がコスト増加につながっている」(各種食料品小売)、「宣言解除後も売上は横ばい。今年のクリスマスはどうなるか…」(洋菓子店)、「気温が下がり、衣料品、住居余暇商品の動きがよい」(百貨店)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「人手不足が深刻」(ソフトウェア)、「25日の制限解除後は客足が戻りつつある。しかし、アルバイトが離れてしまい、急遽募集をかけるも集まらず。時給の大幅上昇が見込まれるため、採算に影響しそう」(日本料理)、「運送業界の人手不足は慢性化。『全産業平均より賃金が2割低く、労働時間が2割長い』というトラックドライバーの働き方改革に着手すべく、国交省が『標準的な運賃』の普及推進運動を実施し、労働環境の改善、人手不足の緩和を期待するものの、荷主企業の理解不足が障害となっている」(一般貨物自動車運送)、「全体的に不動産価額は値上がり気味。物件不足は継続。住宅設備機器等は品不足状態」(不動産管理)、「8月、9月は悪かったが、10月から景気回復の兆しが見られるといった話が多い」(税理士)、「老朽化した収益物件の修繕費用が増えており、修繕や更新を行いつつ、売却購入等の対応も視野に入りたい」(不動産賃貸・管理)、「緊急事態宣言の解除で、すべての授業を通塾形式に戻した。生徒たちは友達に会えて嬉しそうだ。ワクチン接種の副反応で、塾を休む子も多い」(学習塾)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
5月	▲17.3	▲42.1	±0.0	▲27.5	±0.0
6月	▲19.3	▲26.3	▲8.6	▲32.1	▲5.5
7月	▲23.5	▲31.2	▲12.0	▲44.8	△6.6
8月	▲30.6	▲31.2	▲11.5	▲51.7	▲23.5
9月	▲35.9	▲31.5	▲34.7	▲48.2	▲22.2
10月	▲18.0	▲11.7	▲16.6	▲25.9	▲13.3
見通し	▲2.4	△5.8	▲12.5	▲11.1	△20.0

通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し

【業種別】 今月及び先行きのD I 値

	売上高（受注・出荷）		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 16.8	△ 2.4	▲ 22.8	▲ 3.6	▲ 53.0	▲ 48.1	△ 9.6	△ 16.8
建 設	△ 11.7	△ 5.8	▲ 17.6	±0.0	▲ 41.1	▲ 41.1	△ 29.4	△ 23.5
製 造	▲ 29.1	▲ 4.1	▲ 16.6	▲ 12.5	▲ 75.0	▲ 75.0	△ 4.1	△ 16.6
卸・小売	▲ 22.2	▲ 3.7	▲ 33.3	▲ 11.1	▲ 48.1	▲ 48.1	±0.0	△ 7.4
サービス	▲ 20.0	△ 20.0	▲ 20.0	△ 20.0	▲ 40.0	▲ 13.3	△ 13.3	△ 26.6

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 18.0	▲ 2.4	▲ 13.2	▲ 15.6
建 設	▲ 11.7	△ 5.8	▲ 5.8	▲ 5.8
製 造	▲ 16.6	▲ 12.5	▲ 25.0	▲ 29.1
卸・小売	▲ 25.9	▲ 11.1	▲ 22.2	▲ 18.5
サービス	▲ 13.3	△ 20.0	△ 13.3	±0.0

CCI - LOBOとの比較

【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

【業況DI】

全産業合計では、「柏の景気」が▲18.0に対し、「CCI-LOBO」が▲28.9で柏の方がマイナス幅が10.9ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業である。

【売上DI】

全産業合計では、「柏の景気」が▲16.8に対し、「CCI-LOBO」が▲24.2で柏の方がマイナス幅が7.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業であり、10ポイント以上悪い。

【採算DI】

全産業合計では、「柏の景気」が▲22.8に対し、「CCI-LOBO」が▲32.6で柏の方がマイナス幅が9.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。

【仕入単価DI】

全産業合計では、「柏の景気」が▲53.0に対し、「CCI-LOBO」が▲50.5で柏の方がマイナス幅が2.5ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業は10ポイント以上悪い。

【従業員DI】

全産業合計では、「柏の景気」が△9.6に対し、「CCI-LOBO」が△10.6で柏の方がプラス幅が1.0ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業である。

【資金繰りDI】

全産業合計では、「柏の景気」が▲13.2に対し、「CCI-LOBO」が▲18.9で柏の方がマイナス幅が5.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業であり、10ポイント以上悪い。

【業種別】業界内トピックス

業種別	概 況	トピック	業種
建設業	年内は良いと思います。	年内好況	職別工事業
	畳工場の一部ＬＥＤ化完了。とても明るく作業がしやすくなりました。今後も設備投資していきたい。	設備投資	畳工事請負・畳製造販売業
	年度末までの仕事が多く出ていますが、内容は厳しい状況。	景況は厳しい	土木工事業
	従業員不足はなかなか好転しないまま、ウッドショック、鉄材高騰に加えてセメント等の単価が改正。高くなることはあっても安くはならず、仕入単価が大きく変わり、利益幅はますます厳しくなっている。	従業員不足 材料高騰	とび
	修繕の問合せが増加、新型コロナによって商品の納期に影響がでていて２～３ヵ月は遅れている。	修繕の問合せ増加 商品の納期遅れ	一般土木建築工事業
製造業	今年6月に移転し、規模を縮小し従業員も減らした。	移転及び規模縮小	機械・同部品製造業
	コロナの影響で減少した化粧品、医療品容器は下げ止まったまま大きな変化なし。ここにきて東南アジアの工場で操業が回復したとの情報が入り、軌道に乗れば売上回復が期待できる。ただ確かな情報はまだない。	化粧品、衣料品容器停滞 東南アジア工場操業回復	プラスチック加工
	材料の不足、高騰が顕著。メーカーでの電機部品欠品状態は受注案件の遅延、失注に繋がる。大変厳しい状態。	材料不足・高騰の影響	金属加工機械製造業
	電気部品の納期遅延問題の状況が更に悪化しており、機械を作りたいとも作れない、もしくはコストアップが見込まれている状況。受注としては好調であるが、明るいとは言い切れない状況。	電気部品納期遅延	機械・同部品製造業
	緊急事態宣言が解除されたことにより、製造数量は増加に転じている。また、１０月下旬には飲食店の制限が撤廃されることで、更に増加していくと考えている。	酒類の製造数量増加	酒類製造業
	新型コロナウイルスの影響からか、依然として業績の改善が見られておりません。	業績改善せず	電子応用装置製造業
	材料の高騰が続く。製品単価の値上げに踏み切らざるを得ない。アジアの生産減速（部品調達困難）が間接的に影響が出ている。順調に売上を伸ばしていた製品が、取引先の生産調整により出荷が滞っている。在庫を持たないように仕入を抑制した結果、棚卸ではスリム化が実現した。社内の５Ｓ活動を進めて無駄をなくし、利益を生みだせるよう教育にも力を入れていく。健康セミナーを開催して全従業員で腰痛・肩こり予防ストレッチを学んだ。健康第一。	材料高騰 アジアの生産減速が影響 ５Ｓ活動	金属製品
	第６波を警戒し、緊急事態宣言が解除されてもテレワークは数日実施。徐々に経済活動が戻れば、景気は上向きになる。ようやく人の採用も進み出した感あり。	テレワーク実施 人材採用	鉄鋼業
	世界的な半導体不足や東南アジアを中心とした新型コロナウイルスの影響で、自動車の生産台数が減っている為、中古車の販売やメンテナンスが増加し始めている。よって、補修用部品は、今後一時的に売上の伸びが期待出来る。仕入先の社員の高齢化や人手不足によるしわ寄せがきており、自社の仕事量増加、一時的な人手不足が起きる可能性がある。半導体不足、自動車生産台数の落ち込みが解消されれば、補修部品の需要は減少する確率が高いので、生産設備の増大や人員の増員には慎重にならざるを得ない。むしろ今は働き方改革やＤＸへの対応等、これからの会社の在り方を考えて投資をしていく事が重要になっている。	中古車販売、メンテナンス増加 働き方改革 ＤＸ対応	自動車付属品製造業
	緊急事態宣言が解除され、少しずつ荷動きが出始めたと感じている。在宅勤務、時短営業もコロナ以前の体制に戻した。引き続き注意しながら、積極的な営業活動を再開する。	コロナ以前の体制へ 積極的な営業活動	化学工業
	まだまだ景気については、厳しい状況です。	景況厳しい	百貨店
	駐車場を新設、店舗のプチ改装で今後の売上増を期待。	駐車場新設・店舗改装	洋菓子店
	大手案件が無い中でも、順調な受注を維持。	順調な受注維持	建築材料卸売業

【業種別】業界内トピックス

卸・小売業	緊急事態宣言解除に伴い、人の動きは好転している。夜の飲食解禁で外食の比率が上がったことにより、食品は影響が出ている。衣料品はお出掛け着や肌着などが好転の兆しが見えてきている。	外食増加で食品に影響 衣料品好転	大型小売店
	コロナウイルスや原油高の影響で仕入価格の上昇が利益減になっています。またキャッシュレス化が進みそれによる手数料の上昇が少しずつコスト増につながってきています。	仕入価格上昇で利益減 キャッシュレス手数料	各種食料品小売業
	宣言解除により飲食店も時短から解放される。今後に期待。解除後の数日をみたが、思ったほど人の流れは戻っていない。	飲食店の制限解除に期待	各種商品小売業
	少しずつ飲食店向けの出荷が回復してきた印象はあるが、通常の年末のような需要があるかはわからない。対面小売、通販、直販などバランスを考えて売上を構成しないと、一点集中では変化に対応できないような気がする。	売上の構成バランス	農畜産物・水産物卸売業
	宣言が解除されても売上は横ばい。今年のクリスマスはどうなるか....	売上横ばい	洋菓子店
	人手不足が深刻です。	深刻な人手不足	ソフトウェア業
サービス業	10月は売上大幅に減少も、10月25日の制限解除後は客足が戻りつつある。しかしながら、アルバイトが別の業種で働いてしまったため、急遽募集をかけるも集まらず、時給の大幅上昇が見込まれるため、今後の採算への影響が考えられる。	売上大幅減少 アルバイト時給上昇見込み	日本料理
	運送業界の人手不足は、慢性化しています。「全産業平均より賃金が2割低く、労働時間が2割長い」というトラックドライバーの働き方の改革に着手したい運送事業者については、現在、国交省が令和2年4月に定めた『標準的な運賃』の普及推進運動を実施しています。この適正運賃の告示により、労働環境が改善され人手不足が緩和されることを期待するものの、荷主企業の理解不足が障害となっている現状があります。	人出不足が慢性化	一般貨物自動車運送業
	物件不足は相変わらず続いている。住宅設備機器等は品不足状態。一般のお客様からの問い合わせは不変。全体的に不動産価額は値上がり気味。	物件不足 住宅設備機器科不足 不動産価額値上がり気味	不動産管理業
	8月、9月は悪かったが、10月から景気回復の兆しが出てきているといった話が多くなりました。	景気回復の兆し	税理士
	老朽化した収益物件の修繕費用が増えているので、修繕や更新を行いつつ、売却購入等の対応も視野に入れていきたい。	収益物件の老朽化	不動産賃貸・管理業
	緊急事態宣言の解除に伴って、すべての授業をオンラインから通塾形式に戻した。生徒たちは友だちと会えてとても嬉しそうにしていた。ワクチン接種をする生徒たちも増えてきたが、副反応が強く出てしまい、塾を休む子も多い。これから受験期を迎えるため、第6波が来ないことを祈るばかり。	授業形式を通塾へ変更	学習塾

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図	 特に好調 DI ≥ 50	 好調 50 > DI ≥ 25	 まあまあ 25 > DI ≥ 0	 不振 0 > DI ≥ ▲25	 極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 18.0	 ▲ 11.7	 ▲ 16.6	 ▲ 25.9	 ▲ 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 28.9	 ▲ 22.1	 ▲ 14.7	 ▲ 42.2	 ▲ 34.8
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 16.8	 11.7	 ▲ 29.1	 ▲ 22.2	 ▲ 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 24.2	 ▲ 15.4	 ▲ 12.6	 ▲ 39.7	 ▲ 30.6
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 22.8	 ▲ 17.6	 ▲ 16.6	 ▲ 33.3	 ▲ 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 32.6	 ▲ 23.3	 ▲ 26.1	 ▲ 41.5	 ▲ 40.5
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 53.0	 ▲ 41.1	 ▲ 75.0	 ▲ 48.1	 ▲ 40.0
CCI-LOBO	 ▲ 50.5	 ▲ 68.9	 ▲ 60.7	 ▲ 38.3	 ▲ 40.5
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 9.6	 29.4	 4.1	 ±0.0	 13.3
CCI-LOBO	 10.6	 30.8	 5.5	 5.8	 9.0
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 13.2	 ▲ 5.8	 ▲ 25.0	 ▲ 22.2	 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 18.9	 ▲ 6.0	 ▲ 13.9	 ▲ 28.5	 ▲ 27.3

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(10月速報)

調査期間：2021年10月14日～20日

調査対象：全国の337商工会議所が2,634企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、改善も、依然として厳しき続く。先行きは、回復への期待感広がるもコスト増に懸念

10月の全産業合計の業況DIは、▲28.9と、前月から+4.3ポイントの改善。緊急事態宣言等の解除を受けて、時短要請や行動制限が緩和され、外食・観光関連のサービス業では利用客の増加がみられた。製造業、卸売業では飲食料品や電子部品関連が堅調に推移する一方、半導体不足や東南アジアでの感染拡大を背景とした部品の供給制約による、生産活動への影響が継続している。また、鉄鋼などの原材料費や、原油価格を含む資源価格の上昇、最低賃金引上げに伴う人件費の負担増加など、幅広い業種でコスト増加が足かせとなっており、中小企業の業況改善に向けた動きは厳しさが続く。

内の観光需要回復、年末年始の個人消費拡大への期待感が広がっている。一方で、半導体不足や部品供給制約による業績への影響、資源価格の高騰、円安の進行、原材料費上昇分の価格転嫁の遅れによる収益圧迫などへの懸念から、中小企業においては、先行きへの慎重な見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業で悪化、その他の業種は改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「公共工事の案件が減少傾向にある。木材や鉄、原油等の価格上昇による今後の業績への影響を懸念している」(一般工事業、「海外からの電気機器の納期遅れにより工期に影響が出ている。また、銅の価格上昇により、ケーブル等の電材価格が上昇しているが、販売価格

に転嫁できておらず、収益を圧迫している」(管工事業)

【製造業】「自動車向けの売上が堅調だったものの、半導体不足による自動車メーカーの減産の影響により、今後の受注量は減少する見込み。鉄鋼の仕入価格上昇による収益圧迫もあり、先行きに対する不安感が拭えない」(ポルト・ナット等製造業)、「観光用の土産菓子の受注が入ってきており、売上は改善したものの、例年の受注量より少ない状況が続いている。活動制限緩和に伴う今後の売上増加を期待したい」(菓子製造業)

【卸売業】「地域の感染者数の減少に伴い、観光施設や遊園地からの受注が増加した。一方で、今後原油価格の高騰が続けば、仕入れコストへの影響は避けられず、販売価格への転嫁を検討せざるを得ない」(食料・飲料卸売業)、「衣類の需要低迷が続いているほか、工場のあるベトナムでの感染拡大やコンテナ不足により、秋冬物商品の入荷が遅れており、販売機会の損失が生じている」(衣服・日用品卸売業)

【小売業】「食料品を中心に売上を確保できている。今後は、地域の賑わいの拠点となるべく、専門店を充実させたりニューアルエリアをオープンする予定であり、来店客数の増加を期待している」(百貨店)、「客足は回復傾向にあるものの、例年の来店客数には及ばない。非接触のニーズが高まる中、営業時間外における販売促進策として路面に自動販売機を設置し、収益確保を図る」(菓子小売業)

【サービス業】「緊急事態宣言の解除に伴い、出張などのビジネス目的の利用客が増加した。今後は県内旅行を促進する地元の支援策の再開が予定されており、さらなる売上の増加を期待している」(宿泊業)、「原油価格の高騰により、コスト負担が増加していることに加え、自動車メーカーの減産の影響により、原材料・部品の輸送量が減少している」(運送業)

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
5月	▲25.0	▲18.9	▲15.0	▲23.9	▲31.6	▲33.5
6月	▲26.7	▲19.8	▲14.6	▲25.8	▲41.8	▲30.6
7月	▲24.1	▲18.2	▲9.7	▲28.3	▲37.6	▲28.9
8月	▲29.4	▲20.9	▲12.5	▲30.7	▲44.4	▲37.9
9月	▲33.2	▲18.7	▲18.1	▲35.0	▲48.0	▲43.8
10月	▲28.9	▲22.1	▲14.7	▲32.1	▲42.2	▲34.8
見通し	▲21.6	▲18.4	▲16.0	▲24.4	▲30.2	▲20.9

柏の景気情報 (令和3年10月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

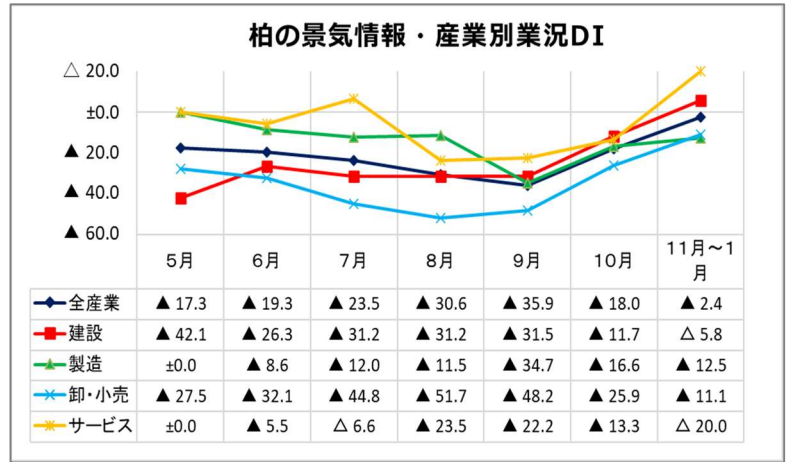
調査期間：令和3年10月25日～11月8日 調査対象：柏市内129事業所及び組合にヒアリング、回答数83件

緊急事態宣言解除で、全産業DIは6か月ぶりに改善。先行きは回復への期待感高いが、資材高騰等に懸念

10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.0(前月水準▲35.9)となり、マイナス幅が17.9ポイント縮小した。

緊急事態宣言が解除され、10月はすべての業種でDI値が改善した。人出の増加が見られ、飲食店や小売店では利用客が増加。建設業、製造業では、経済活動が徐々に活発となり、修繕問合せ及び生産量が増加傾向だが、資材の不足、高騰が続き、採算悪化や納期の遅延が起きている。また、飲食、運輸業では人出不足とのコメントが寄せられた。

先行きDI値は▲2.4(前月比+15.6)であり、回復への期待感は強く、建設、サービス業はプラスに転じる見込み。



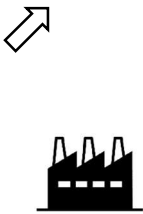
★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「年内は良さそう」(職別工事)、「工場の一部LED化完了。とても明るく作業がしやすくなった。今後も設備投資していきたい」(畳)、「年度末までの仕事が多く出ているが、内容は厳しい」(土木工事)、「従業員不足が好転しないまま、ウッドショック、鉄材高騰に加えセメント等の単価が改正。利益幅がますます減少」(とび)、「修繕の問合せ増加。コロナで商品の納期が2～3ヵ月は遅れている」(一般土木建築工事)



製造業

「材料不足、高騰が顕著。メーカーの電機部品欠品状態は、受注案件の遅延、失注に繋がる」(金属加工機械)、「電気部品の納期遅延が悪化し、機械が作りたくても作れず、コストアップが見込まれる。受注は好調だが、明るいとは言い切れない」(機械・同部品)、「緊急事態宣言の解除により、酒類の製造量増加。飲食店の制限解除により、さらに増加を見込む」(酒類)、「材料高騰が続き、製品単価の値上げに踏み切らざるを得ない。順調に売上を伸ばしていた製品が、取引先の生産調整により出荷が滞る。在庫を持たないようにし、棚卸でスリム化を実現。社員教育に力を注ぎ、健康セミナーも開催」(金属製品)、「第6波を警戒し、緊急事態宣言解除後もテレワークを実施。人材採用が進みだした感あり」(鉄鋼)、「自動車の生産台数が減っている為、中古車販売やメンテナンスが増加しており、補修用部品の一時的な伸びが期待できる。生産数が回復すれば需要が減る可能性は高く、生産設備の拡大や増員は慎重。今は、働き方改革やDX対応等への投資が重要」(自動車付属品)、「少しずつ荷動きが出始めた。在宅勤務、時短営業もコロナ以前の体制に戻し、注意しつつ積極的営業活動を再開」(化学工業)



卸・小売業

「まだまだ景気は厳しい状況」(百貨店)、「駐車場を新設、店舗のプチ改装で今後の売上増を期待」(洋菓子店)、「大手案件が無い中でも、順調な受注を維持」(建築材料卸売)、「人の動きが好転。夜の外出増加により、食品の売上に影響。お出掛け着や肌着が好転の兆し」(大型小売店)、「コロナや原油高で仕入価格が上昇し、利益減。キャッシュレス手数料の上昇がコスト増加につながっている」(各種食料品小売)、「宣言解除後も売上は横ばい。今年のクリスマスはどうなるか…」(洋菓子店)、「気温が下がり、衣料品、住居余暇商品の動きがよい」(大型小売店)



サービス業

「人手不足が深刻」(ソフトウェア)、「25日の制限解除後は客足が戻りつつある。しかし、アルバイトが離れてしまい、急遽募集をかけるも集まらず。時給の大幅上昇が見込まれるため、採算に影響しそう」(日本料理)、「運送業界の人手不足は慢性化。「全産業平均より賃金が2割低く、労働時間が2割長い」というトラックドライバーの働き方改革に着手すべく、国交省が『標準的な運賃』の普及推進運動を実施し、労働環境の改善、人手不足の緩和を期待するものの、荷主企業の理解不足が障害となっている」(一般貨物自動車運送)、「全体的に不動産価額は値上がり気味。物件不足は継続。住宅設備機器等は品不足状態」(不動産管理)、「8月、9月は悪かったが、10月から景気回復の兆しが見られるといった話が多い」(税理士)、「老朽化した収益物件の修繕費用が増えており、修繕や更新を行いつつ、売却購入等の対応も視野に入りたい」(不動産賃貸・管理)、「緊急事態宣言の解除で、すべての授業を通塾形式に戻した。生徒たちは友達に会えて嬉しそうだ。ワクチン接種の副反応で、塾を休む子も多い」(学習塾)

★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲18.0に対し、「CCI-LOBO」が▲28.9で柏の方がマイナス幅が10.9ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸・小売業、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業である。